

平成 23 年度研究成果情報

課題名：砂泥域におけるタイラギ稚貝の移植技術の開発

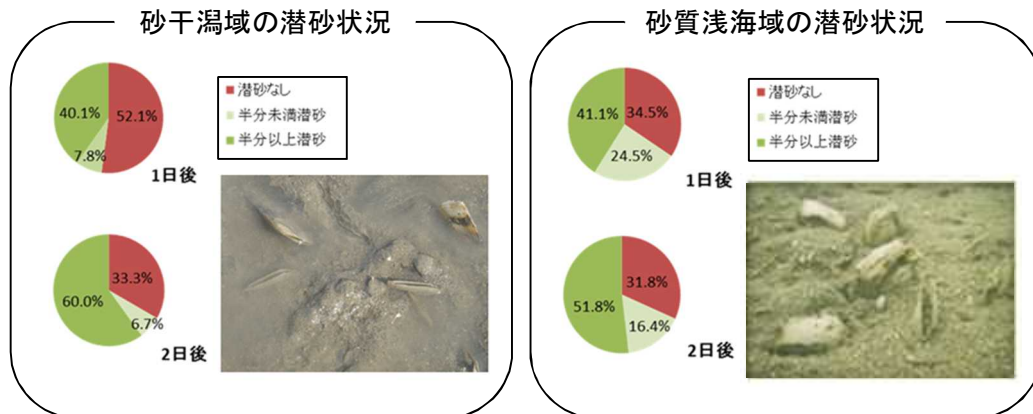
[背景・ねらい]

タイラギは、有明海佐賀県海域における冬季の主要漁獲対象種であるが、2001年度以降原因不明の「立ち枯れ斃死」の発生により、漁獲量は低迷し、タイラギ漁業者の漁業経営は極めて厳しい状況となっている。

そこで、「立ち枯れ斃死」する可能性がある沖合漁場の天然稚貝を、斃死のリスクが少ない干潟域に移植する技術を開発することにより、養殖手法の確立や母貝団地の造成によりタイラギ資源の再生産力向上を図る。

[成果の内容・特徴]

- (1) これまで、1個ずつ手作業で移植したが、効率が悪く、更に潮が引かない浅海域では対応できないため、「ばらまき移植」を試みた。
- (2) 沖合で採捕した天然タイラギ稚貝を砂干潟（地盤高 1.0m）及び砂質の浅海域（水深 1.0m）にばらまいて放流したところ、いずれも放流 2 日後までに約 7 割の稚貝が潜砂することが確認された（下図）。
- (3) このことから、水深 1.0m～地盤高 1.0m 程度の砂泥域であれば、稚貝の移植による養殖が可能であることを確認し、移植法としては、稚貝が自ら潜砂する性質を利用した「ばらまき移植」が効率的であることを確認した。



[課題・問題点]

- ・低塩分や貧酸素の影響があるため、移植適地が現状では限られている。

[今後の対応]

- ・より沖合の低塩分・貧酸素の影響を受けにくい場所における底質改善及び「ばらまき移植」等の検討

[その他]

研究期間：平成 23 年

研究担当者：資源研究担当 荒巻 裕、福元 亨